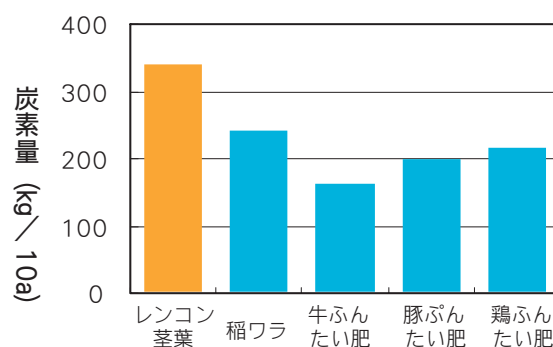


環境と調和したレンコン産地の育成

近年、レンコンは安定した価格が続いているものの、引き続き安全・安心に対する消費者ニーズに対応するとともに、霞ヶ浦などの周辺環境にもやさしい生産を行うことが求められています。産地でも、化学肥料の施用量などの削減に取り組んでおり、それをPRするためにエコファーマーやエコ農産物（特別栽培農産物）の取得を進めており、普及センターではその支援を行っています。

■ エコファーマーの拡大に向けて ■

レンコン栽培では、収穫後、多くの茎葉が残さとなります。農業総合センターと園芸研究所の協力を得て、茎葉の成分を調査したところ、炭素などは他の土づくり資材と比べても遜色がないことが分かりました。その後、茎葉のすき込みは土づくり技術として認められ、エコファーマーの「たい肥等有機質資材施用」の技術として認定されました。



※たい肥は平均的濃度なもの 1000kg、稲わらは 600kgで想定

図 レンコン茎葉の炭素量



集荷場に掲示した予察結果

■ 特別栽培の定着を目指して ■

レンコンの特別栽培において、問題となる病害虫にアブラムシがあります。アブラムシの適期防除を促すため、アブラムシの予察を実施し、その結果を集荷場の掲示板に情報提供しました。生産者もその年のアブラムシの推移を参考にして、初期防除に努めています。

■ 生産者研修会 ■

2月に「レンコン生産者研修会」を開催し、茎葉のすき込み等について、情報提供を行いました。さらに、大阪の市場担当者による、関西地方でのレンコンの消費と販売の状況についての講演では、近年関西で茨城県産の取引量が増えてきており、今後さらに販売量の増加が見込まれるとの話がありました。



レンコン生産者研修会